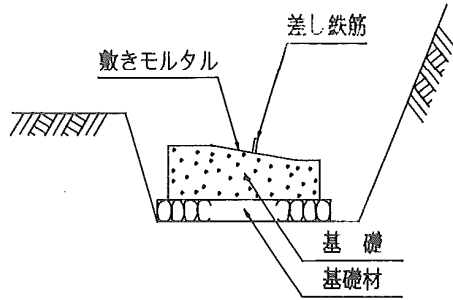


施工要領 - 1

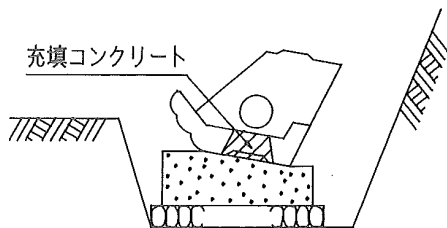
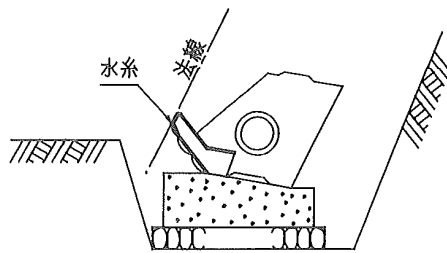
・標準的な施工手順は次のようになります。

1. 基礎



・所定寸法の基礎を設け、状面の清掃を行い、不陸調整用の敷きモルタルを施工します。

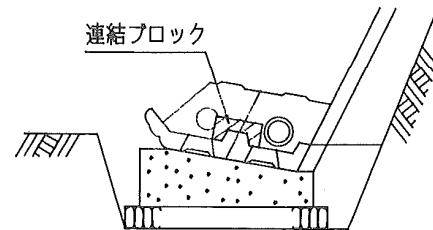
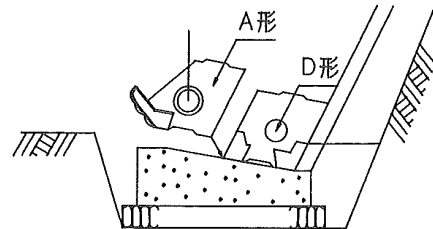
2. 1段目(根石)の施工



・ブロックが設計勾配に組積できるように、丁張を掛けます。

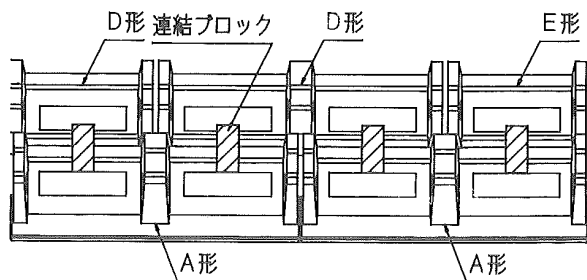
・ブロックの先端部を水系に合わせ、1段目を据え付けます。

・A形の目地モルタルを充填する場合およびA形(D形)下部開口をコンクリートで充填する場合は、各段毎に全数を据え付けてから行います。

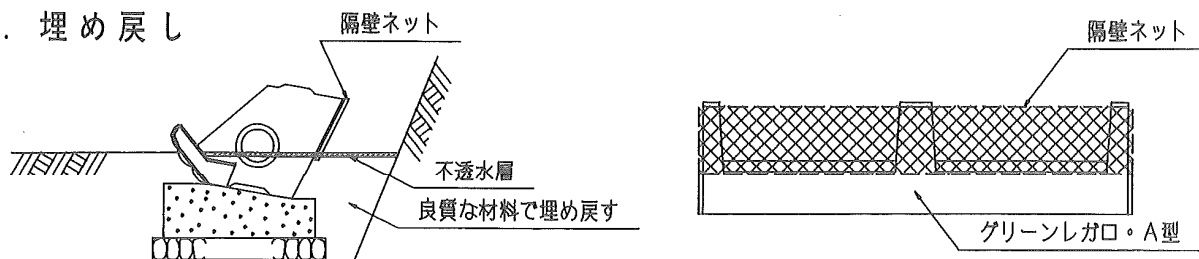


・2連式以上の場合、裏丁張を掛けて先にD形を据え付けます。D形がずれないように背面土を埋め戻してからA形を据え付けます。そして各段ごと連結材により前後のブロックで連結します。

・2連式以上の場合、1段目ブロックの前後は、千鳥状となるように施工します。(全面ブロックの端部がA型の時は、背面ブロックの端部は、E型を使用する。)

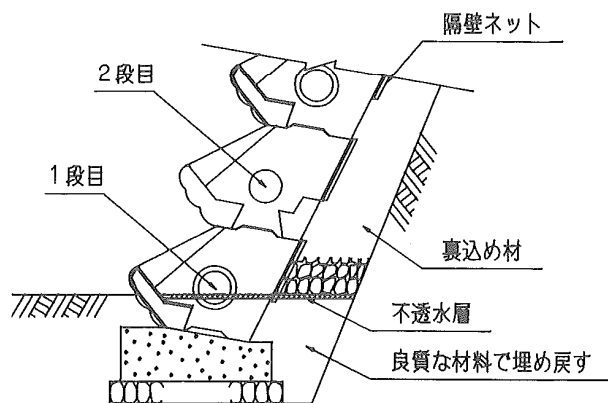


3. 埋め戻し



- 必要に応じて擁壁背面開口部に隔壁ネットを設置します。このネットを境にして裏込め部および隅込め部に、所定の材料を充填し、つき固めます。
- 湧水がある場合は、擁壁前面地山の高さまでは遮水性のある材料で埋戻し、不透水層（コンクリート）を施工します。この他、集水パイプによる排水工も有効な方法だと思われます。

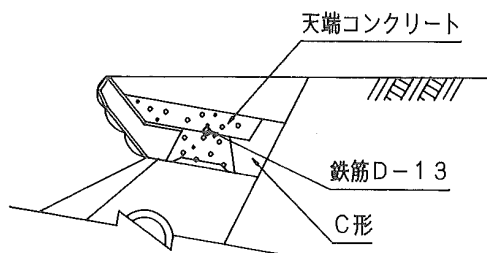
4. 2段目以降の施工



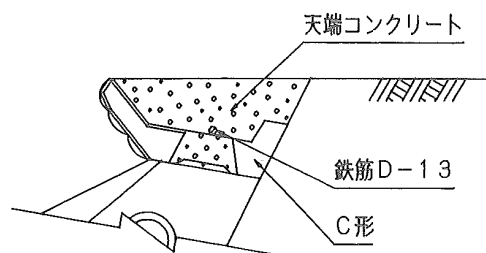
- 2段目ブロックは、1段目ブロックの上端部を清掃し、端部にはB形を据え、千鳥状となるように施工します。（2連式以上の場合は、前面・背面ブロックも千鳥状になるように施工します。）
- 以降は、2段目と同様の作業をくり返します。

5. 天端処理

[ケース1]



[ケース2]



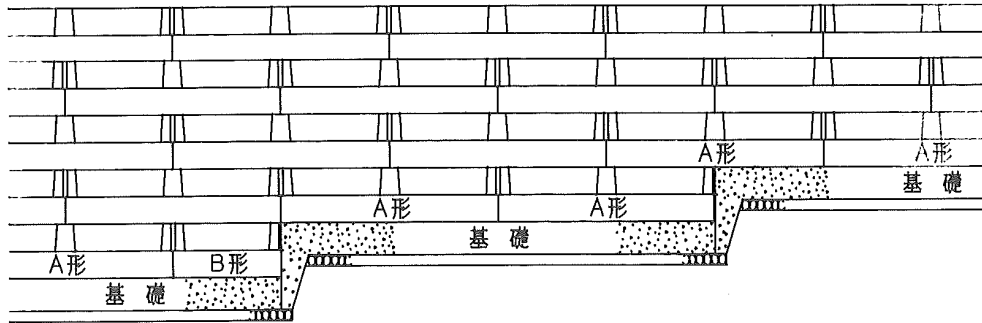
- 頂部には天端ブロックを据え付け、所定の天端処理を行います。
- 植栽部は、指定材料の客土を行い、植生を行います。

施工要領 - 2

- ・ 施工における対処方法として下記の例を参考にして下さい。

1. 階段状基礎

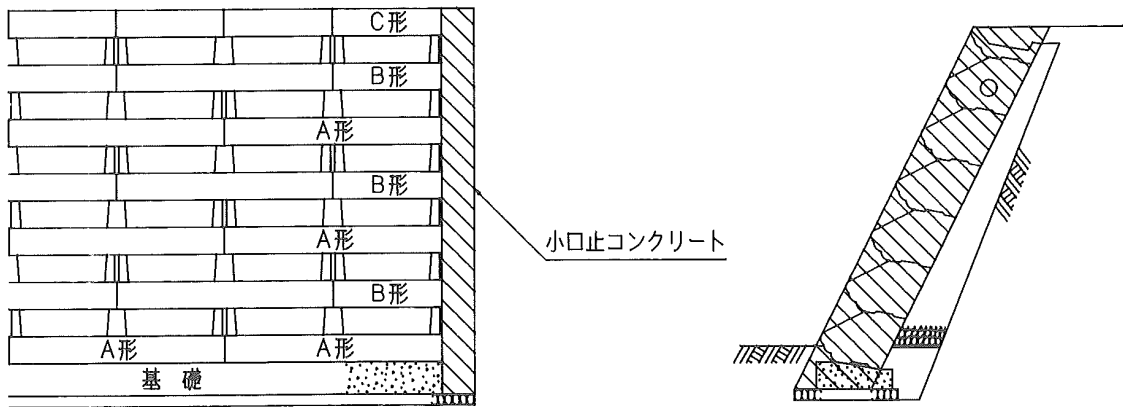
- ・ 階段状基礎とする場合は、図のようにブロックが水平となるように施工します。



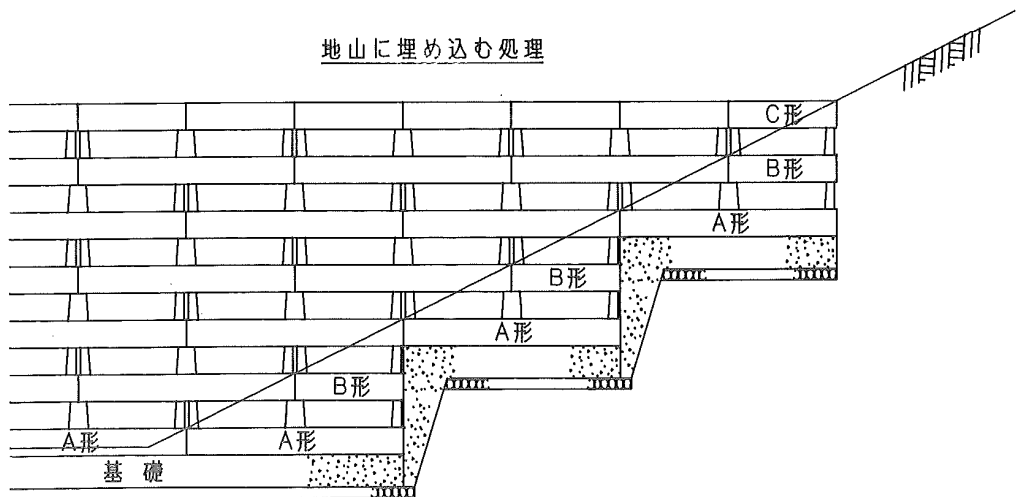
2. 終端処理

- ・ 端部は、小口止コンクリートを施工するか、または地山へ埋め込むように延長調整をします。

小口止コンクリート

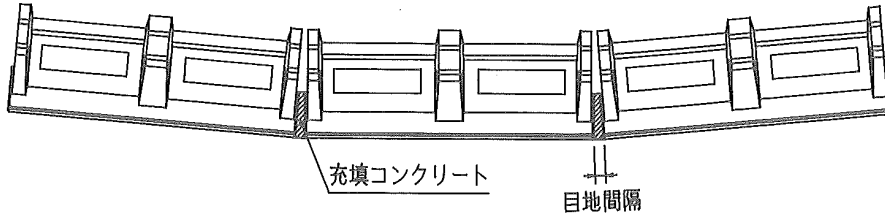


地山に埋め込む処理

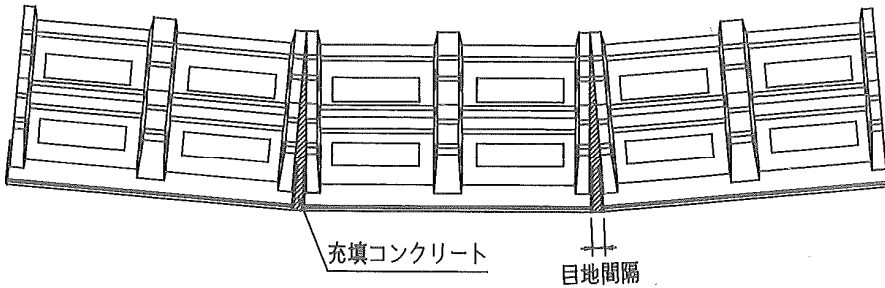


3. 目地の処理

- 曲線部および施工延長区間の微調整で、目地間隔が生じた場合は、この部分にコンクリートまたはモルタルを充填し、外観を整えます。（目地間隔は30mm程度までとし、これを超える場合は、設計要領-10を参照下さい。）



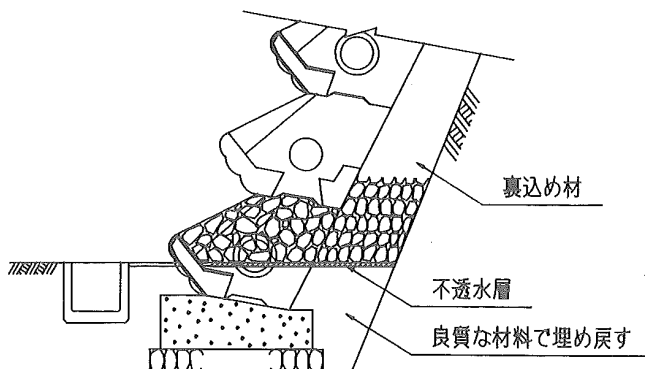
- 2連式以上の場合の曲線部の処理方法は、前面・背面ブロックは千鳥状とせず各ブロックの端部のすきまにはコンクリートを充填します。（曲率半径の小さい場合B型を使用します。）



4. 排水処理

- 地山からの湧水や、降雨による浸透水が多い場合は、裏込め材から最下段胴込め栗石部を通じて、基礎前面の側溝等に排水するか、または有孔排水管を使用して排水します。
- 地山からの湧水が激しい箇所、河川護岸等に使用する場合は吸い出しの心配がありますので吸い出し防止材をブロックの背面に設置します。

胴込め栗石を通じて排水



有孔排水管による排水

